

国土交通省都市局

都市の個性の確立と質や価値の 向上に関する懇談会 資料

2025年1月15日
三菱地所株式会社
井上 成

井上成／Shigeru Inoue

三菱地所株式会社

エリアマネジメント企画部 担当部長

兼 新事業創造部 兼 中部支店

兼 一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会（通称：エコッツェリア協会）理事

兼 NPO法人大丸有エリアマネジメント協会 アート・アーバニズム総合プロデューサー

兼 大丸有SDGs ACT5実行委員会 実行委員

兼 健康長寿産業連合会 健康都市モデルWG座長



東京芸術大学

芸術未来研究場 特任教授（2024/8～）

● 施設開発プロデュース

「Nagoya Slow Art Center」

2024/3

「Personal Wellness Clinic MARUNOUCHI」

2023/7

「有楽町SAAI」

2020/2

「有楽町micro FOOD&IDEA MARKET」

2019/12

「Medicha」

2018/6

● プロジェクトプロデュース(コトづくり)

「TOKYO WELLCITY by 東京芸術大学」

2024/4

「有楽町アート・アーバニズム(YAU)」

2022/2

「大丸有SDGs ACT5」

2020/5

「有楽町MICRO STARS DEVELOPMENT」

2019/12

「丸の内ヘルスカンパニー」

2019/4

直近5年の取組

有楽町まちづくりビジョン ～ 2023年11月 有楽町まちづくりビジョン策定委員会～

2. 有楽町が目指すべき将来像

新たな出逢い・交流・発信の拠点「TOKYOの何かに、誰かに出逢う街」
～有楽町で逢いましょう～

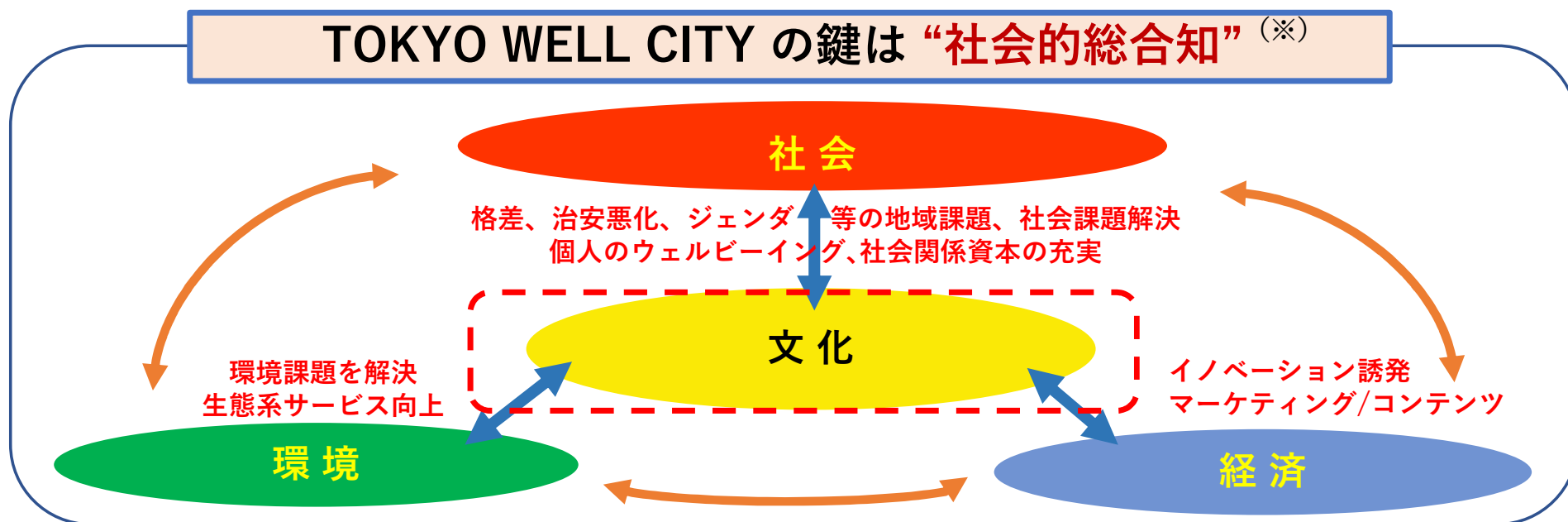
テクノロジーの進展により時間・空間を超えたコミュニケーションが容易になった時代だからこそ、人と人との出逢いやリアルな体験のつながり、そしてその連鎖によって情報が加速度的に渦巻き発信されるという都市ならではの価値、「新しい出逢いと交流の機会を提供するTOKYO」を体現する有楽町へ。周辺地区と機能的・空間的つながりをもって、まちぐるみで有楽町の魅力を高めるとともに、MICEに代表されるような拠点間の連携を牽引することで、東京都心ひいては日本経済の更なる成長に貢献する。時代の変化を柔軟に捉えつつ、常に新しい価値観を発信する仕組みとマネジメントにより、世界の都市からの注目を惹き続ける。



事例紹介① TOKYO WELLCITY 懇話会（2023年1月～3月開催）

主 催：大丸有環境共生型まちづくり推進協会（通称：エコッツェリア協会）

- 「個人のウェルビーイング向上」と「都市の持続可能な成長」の両立
- WELLBEING実現の為に、“文化”を中心に据えた“クワトロボトムライン”



(※) 社会的総合知：人文・社会科学と自然科学を融合した「総合知」の中でも、地域・人が越境することで社会的価値を創出する知。

[POINT]

文化が経済政策、環境政策、社会政策の重要な要素となる

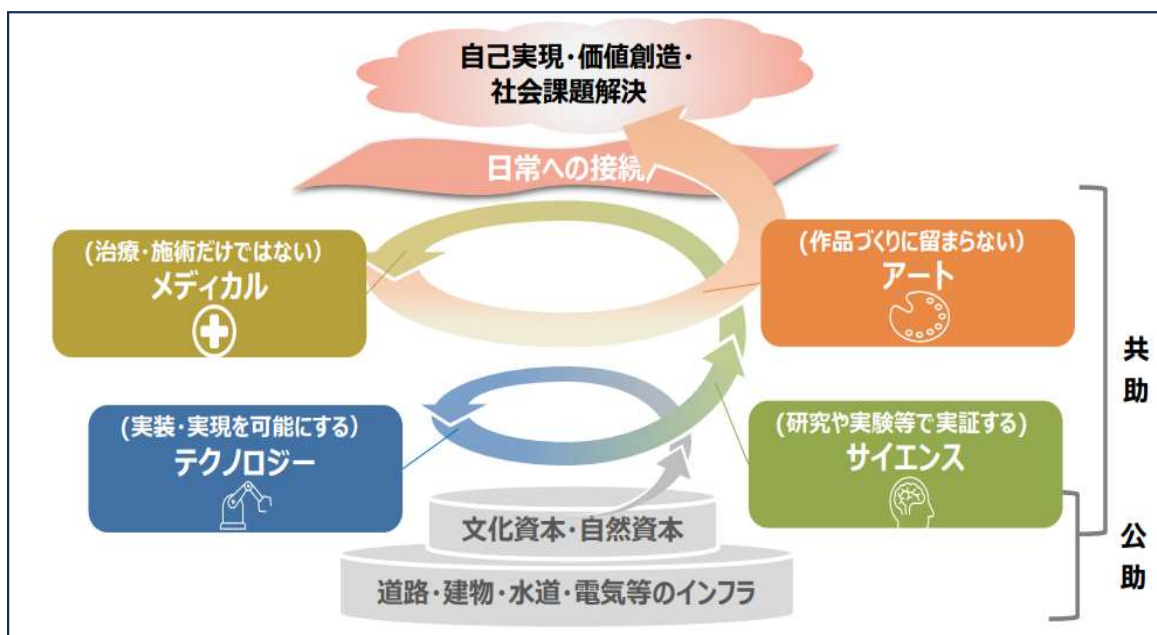
[POINT]

- ✓ 時間的・空間的・精神的 **余白**の創出
- ✓ 余白で提供する価値・・・
 - 豊かな時間**： 出会う、知る [学ぶ]、感じる、考える [内省する]、参加 [体験]する、安らぐ [ストレス抑制]、創造 [制作]する、表現 [発信]する、、、、
 - 豊かな空間**： 修景に止まらない、多様性に優れ、豊かな時間を提供する機能・機会
- cf; バイオフィリック・デザイン・・・「人間は本能的に自然とのつながりを求める」というバイオフィリア理論を、都市設計やオフィス設計等に取り入れた方法論
- 生態系サービス・・・多様性豊かな生態系が提供してくれる恩恵。供給・調整・文化的価値・基盤サービスから構成
- ✓ 余白を生む・活用するための仕組み（5W1H）、マネジメント人材（領域を跨ぐ中間人材・アーバニスト [9 page参照]）の存在
- ✓ 余白活用の効果・価値の可視化／インパクト評価・・・豊かさを何で測るのか

事例紹介② 中核・特色ある研究大学強化促進事業

主 催：東京藝術大学 芸術未来研究場（2024年4月～）

- TOKYO WELLCITY懇話会のPROJECT化（詳細企画中）
- アートとビジネスほか異分野をつなぎ魅力ある都市を創生する「共創の場・仕組み・人材」づくり
- 個人や組織のWELLBEINGと創造性を高める多様なコンテンツの開発・実装



YURAKUCHO
ART URBANISM

事例紹介③

YAU

有 楽 町
ア ー ト
ア ー バ ニ ズ ム

アーティストと街の交流から
イノベーションを起こす

有楽町アートアーバニズム「YAU」

事例紹介③ YAU (Yurakucho Art Urbanism)

- 実施主体** : 有楽町アートアーバニズム実行委員会
(大丸有エリアマネジメント協会、大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、三菱地所)
- 活動拠点** : 有楽町ビル10階 (2022.02-2023.10) ⇒ 国際ビル1階、7階 (2023.10-2025.3)
- 設立経緯** : 有楽町のまちづくりの一環としてクリエイティブ活動の流入・活性化を目指し、アーティストとの共創を推進する組織・拠点として2022年2月より実証プロジェクトを開始

アート×ビジネス	人材育成	ネットワーク形成	賑わい・文化振興
アート×ビジネス領域	ラーニング領域	アートコミュニティ領域	アート×まち・社会領域
・YAU SALON ・アート×ビジネス相談	・藝大連携プログラム ・中間人材/アートマネジメント人材育成	・SOUDAN ・交流プログラム	・まちなかアート活動 ・アート関連コワーキング



事例紹介④ “URBANIST CAMP TOKYO” supported by YAU

【実施者】都市体験デザインスタジオ for Cities

- アーバニスト育成・発掘が目的
- 都市の未来を考えていく為に必要なスキルを、調査・実践・検証を通して学ぶ6カ月間のプログラム
- 社会人を中心に20～30人が参加（参加費10万円）
- テーマ：「Re- Wilding / 都市の再野性化」



「Emotional City / 都市の“感情価値”」

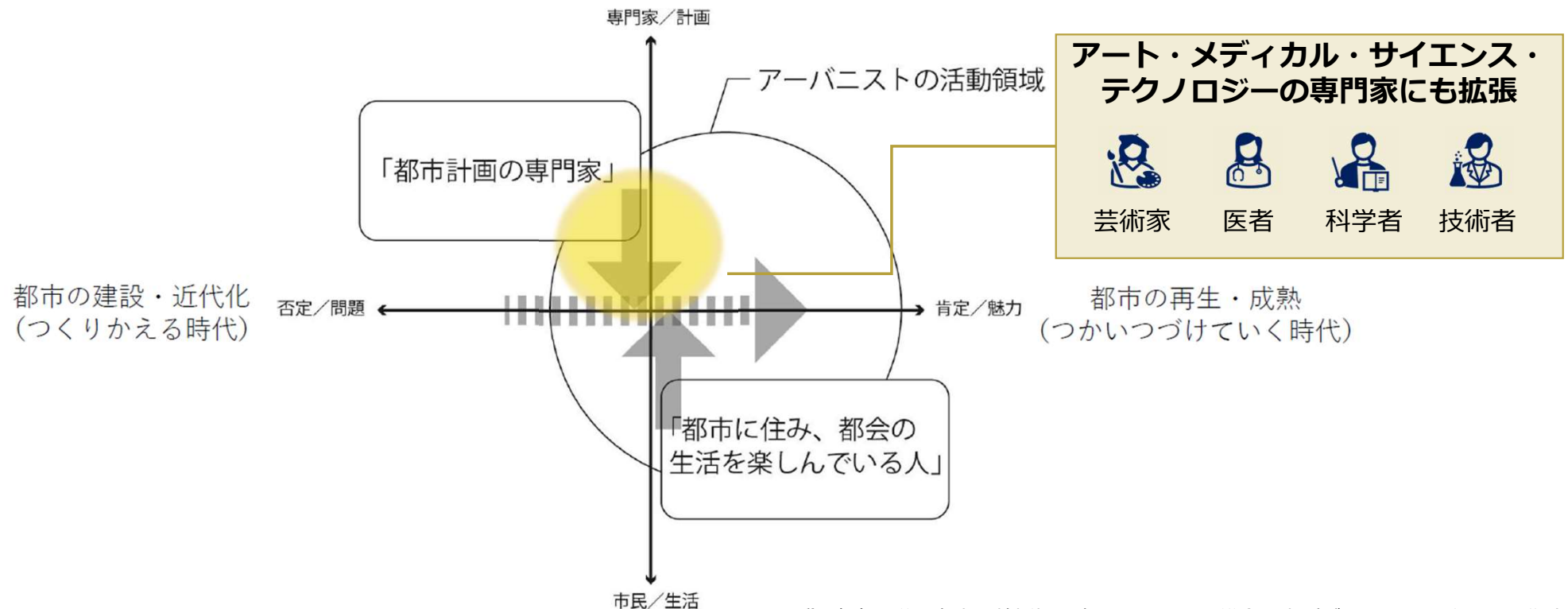
(2024)



アーバニストとは？ ～TOKYO WELL CITY懇話会資料より～

各領域の専門家が「魅力ある都市の創成者」としてまちを変える

- ウェルビーイングをテーマに、領域融合・地域融合を目指すTOKYO WELL CITYの枠組みにおいて、アート・メディカル・サイエンス・テクノロジーの専門家がアーバニストになりえるのではないかという仮説



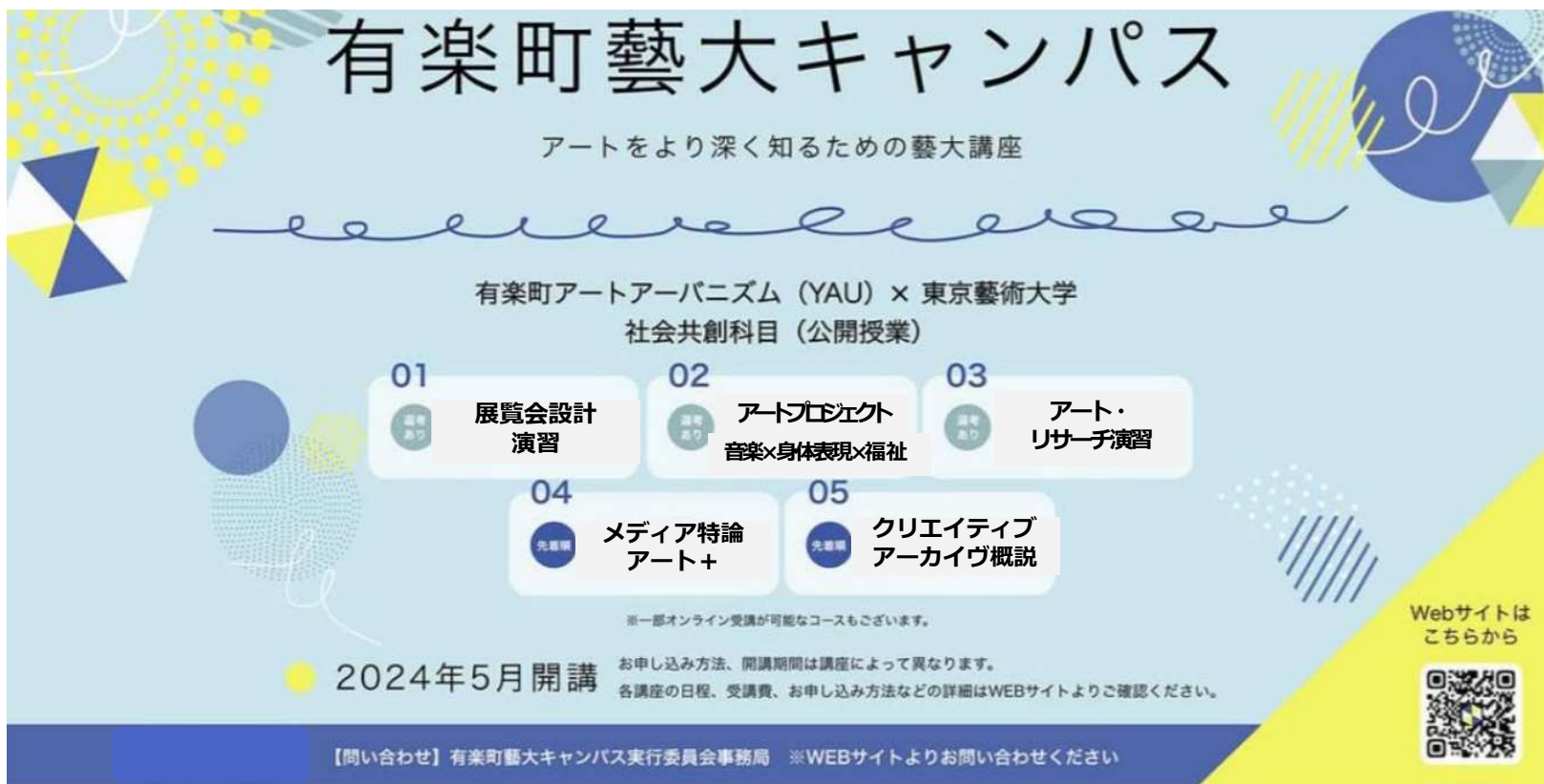
出所) 東京大学中島直人教授提供資料を基に三菱総合研究所が新たに図を追記して作成



事例紹介⑤ 有楽町藝大キャンパス

主 催：Y A U / 東京藝術大学 / 東京都（2023年4月～）

- 社会人（有料5～10万円）と藝大生（単位認定）との共同授業
- 領域をつなげる **中間人材の育成**



有楽町藝大キャンパス

アートをより深く知るための藝大講座

有楽町アートアーバニズム（YAU）× 東京藝術大学
社会共創科目（公開授業）

01	02	03
講座あり 展覧会設計 演習	講座あり アートプロジェクト 音楽×身体表現×福祉	講座あり アート・ リサーチ演習
04	05	

先着順 メディア特論 アート+	先着順 クリエイティブ アーカイヴ概説
-----------------------	---------------------------

※一部オンライン受講が可能なコースもございます。

2024年5月開講

お申し込み方法、開講期間は講座によって異なります。
各講座の日程、受講費、お申し込み方法などの詳細はWEBサイトよりご確認ください。

Webサイトは
こちらから

【問い合わせ】有楽町藝大キャンパス実行委員会事務局 ※WEBサイトよりお問い合わせください

QRコード



事例紹介⑥ 有楽町 S i t P a r k

After

Before



事例紹介⑦ 藝大ヘッジ (2016年～)



- 武蔵野の風景再生、40種を超える多様性（関東在来種）
- 「お世話隊」（藝大生、職員、地元ボランティア）が手入れ



事例紹介⑧ FUTURE VISION SUMMIT

主 催：FUTURE VISION SUMMIT実行委員会〔大丸有まちづくり協議会、Forbes JAPAN、LIGARE、YAU〕

開 催：2024年11月13日～15日 於：大丸有地区（丸ビル、三菱ビル、国際ビルほか）

概 要：ビジネスとアート領域からリーダーが集結し、未来に向けた問いと対話を発信する都市型イベント



- アートを軸に社会経済を考える初の都市型イベント
- 未来社会を体感できるカンファレンス&ショーケースの複合体験
- 分野や肩書きを横断して集う次代のリーダーたちが参加



※芸術未来研究場展@東京藝術大学（2024年11月27日～12月3日）と展示作品の一部を連携



人を、想う力。街を、想う力。三菱地所

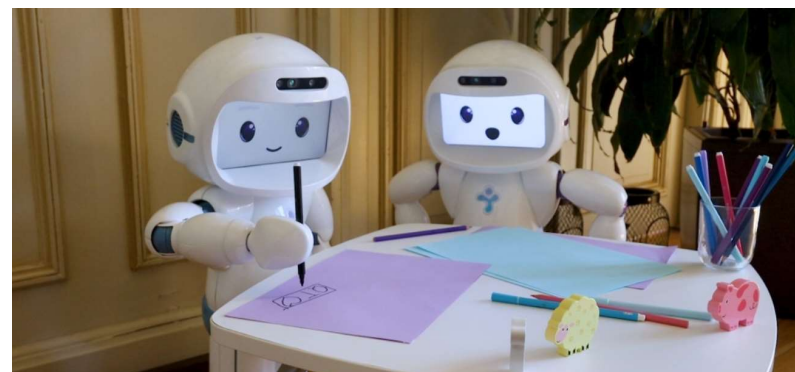
事例紹介⑨ 欧州文化首都（1985年～）

■ 欧州連合 (EU) が指定した都市で一年間にわたり集中的に各種の文化行事を展開する事業

- 欧州委員会が既に2033年まで開催国を決定済み
- 国内の立候補都市が開催権獲得に向け、地域住民、文化・経済・地域社会関係者とともに様々な準備活動を展開
- EU・ジャパン・フェスト事務局が架け橋（1993年～）



Kaunas 2022（リトアニア）



Esch 2022（ルクセンブルク）



Timisoara 2023（ルーマニア）



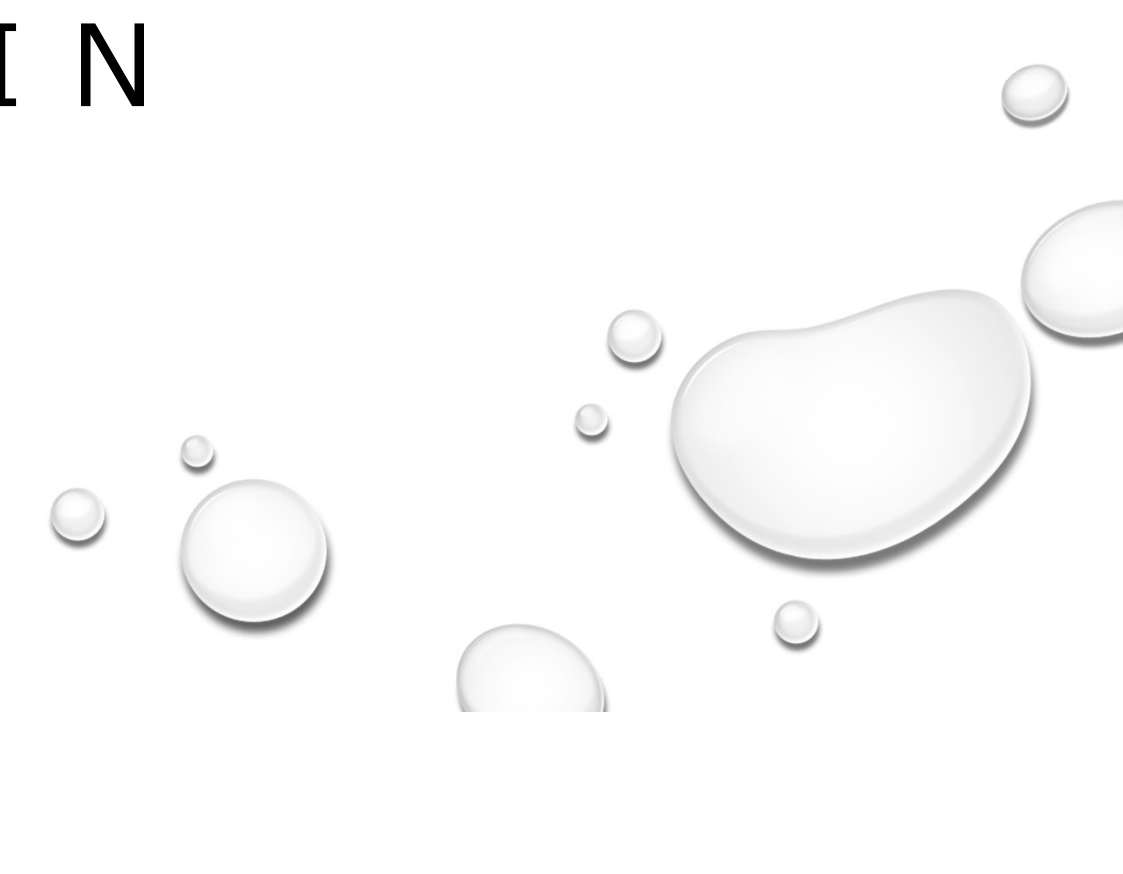
欧州文化首都のレガシー ～欧州委員会レポートより～

- (1) 都市を再生する
- (2) 都市の国際的認知度を上げる
- (3) 住民の目に映る、彼らの都市に対するイメージをより
良いものにする
- (4) 都市の文化に新たな息吹をもたらす
- (5) 観光事業を発展させる



A cluster of water droplets in the top left corner, including a large semi-circular droplet, a smaller rounded one, and several tiny beads.

F I N

A cluster of water droplets in the bottom right corner, featuring a large irregular droplet, a medium circular one, and several tiny beads scattered around them.